

宮澤賢治と カルテットへの誘い

宮澤賢治 得業論文提出から100年 記念特別企画

場所

岩手大学農学部附属農業教育資料館 2階講堂

日時

2018年10月20日(土)

午後1時

受付開始

午後1時半～2時半 〈第1部〉 宮澤賢治 得業論文 解説

解説者：伊藤菊一 教授（同資料館 館長）

午後3時～4時

〈第2部〉 ラトゥール・カルテット コンサート

《ドヴォルザーク作曲》

弦楽四重奏曲「アメリカ」より 第1、第4楽章

交響曲第9番「新世界より」より 第2楽章（弦楽四重奏版）

など

※曲目は予告なく変更となる場合がございますので、予めご了承ください。



■ 対象

岩手大学学生・大学院生、
教職員、一般市民

■ 申込・費用

申込不要、参加費・入館料
ともに無料

問い合わせ先：岩手大学農学部附属農業教育資料館

〒020-8550 盛岡市上田3-18-8

Tel. 019-621-6103・6678

宮澤賢治 得業論文提出から100年 特別企画の開催にあたって

宮澤賢治氏は、大正七年（1918年）に得業論文（現在の卒業論文）を提出し、岩手大学農学部の前身である盛岡高等農林学校を卒業しました。2018年は賢治氏が得業論文を提出してから100年の節目となる記念すべき年です。

「腐植質中の無機成分の植物に対する価値」と題する賢治氏の得業論文は、コロイド化学、無機化学、分析化学、土壤学、肥料学、植物栄養学、さらには、生化学や酵素学といった当時の最新の知見が盛り込まれ、論理展開も明瞭で、現代科学の視点から見ても、優れたものです。今回は、賢治氏の得業論文の中で引用している英語文献等の一部について、その原典を特別展示いたします。

賢治氏は、クラシック音楽を好んで聴き、作曲もしておりました。今回の特別企画では、ラトゥール・カルテットの演奏を聴きながら、皆様と共に賢治氏を育んだ往時の盛岡高等農林学校に思いを巡らせたいと思います。

岩手大学農学部附属農業教育資料館

館長 伊藤 菊一

ラトゥール・カルテット

2009年6月の石神の丘美術館のコンサート出演を機に結成された。

この「ラトゥール」という名前は、バロック時代の高名な画家、ジョルジュ・ラ・トゥールに由来する。

これまでに石神の丘美術館をはじめ、もりおか啄木・賢治青春館、萬鉄五郎記念館美術展、野村胡堂あらえびす記念館、岩手県公会堂などで演奏会を開き、好評を博す。

カルテットのメンバーは、各々、県内外で指導者、演奏家として活動している。



□ 演奏者プロフィール（写真左より）

山口 あうい [ヴァイオリン]

京都市出身。愛知県立芸術大学卒業。桑原賞受賞。同大学院音楽研究科修了。
日本室内楽アカデミーオーディション合格。ウィーン国立音楽大学に留学。
都留音楽祭セミナーにてバロックヴァイオリンを受講。
堀内ハルキ、亀田美佐子、故・阿部靖、田渕洋子、澤和樹、進藤義武、故・フランツ・サモヒル、渡邊慶子、
バロックアンサンブルを岡田龍之介の各氏に師事。
現在、ヴァイオリン教室を主宰。いわてフィルハーモニー所属。

三浦 祥子 [チェロ]

盛岡市在住。5歳より盛岡音楽院にてピアノ、ソルフェージュを学ぶ。岩手大学教育学部附属中学校在学中、チェロを村井正一氏に学ぶ。盛岡白百合学園高等学校、愛知県立芸術大学器楽科卒業。黒沼俊夫、井上頼豊、天野武子氏に師事。ソロ活動や宮沢賢治記念館事業「賢治の世界セミナー」講師。奥州ジュニア、盛岡白百合学園高等学校オーケストラ講師。いわてフィルハーモニー所属。音楽教室主宰。

熊谷 啓幸 [ヴィオラ]

弘前大学在学中にヴィオラを村山弘氏に師事。
これまでにヴァイオリンオリンを松見和子、村山弘、長谷部雅子の各氏に師事。アンサンブルを村山弘、
三戸正秀、藤沢俊樹の各氏に師事。
現在、盛岡と弘前にてヴァイオリン教室を主宰。いわてフィルハーモニー所属。

馬場 雅美 [ヴァイオリン]

武蔵野音楽大学卒業。元東京フィルハーモニー交響楽団ヴァイオリン奏者。
結婚を機に岩手に移住。
長谷川孝一、比留間和夫、日高毅、ルイ・グレーラーの各氏に師事。
現在、矢巾町田園室内合奏団にてヴァイオリン講師。